

北野恒富研究—昭和期の日本画作品を中心に—

文学研究科 文化構想学専攻 文化資源学専修
2024 年度

BBD23011 井上 ひかる

目次

はじめに	4
第1章 語られてきた北野恒富	7
第1節 恒富はどのように語られてきたのか	7
(1) 恒富没後——等閑視されてきた大阪画壇	
(2) 平成の回顧展の開催に始まる恒富研究史	
第2節 恒富はどのように受けとめられてきたのか	11
(1) 生前の評価	
(2) 没後の評価	
第3節 本研究の問題意識	29
第2章 北野恒富の人生	36
第1節 伝記の基礎資料	36
(1) 「北野恒富先生筆塚」(高津宮)	
(2) 北野恒富「自筆履歴」	
(3) 新聞雑誌記事、スクラップブック『夜雨庵草堂』	
(4) 先行研究	
第2節 北野恒富の画業区分とその人生	39
(1) 誕生から第一期「日本画家恒富誕生」(明治十三年—大正五年)	
(2) 第二期「院展同人となって」(大正六年—大正十一年)	
(3) 第三期「大阪画壇の大家として」(大正十二年—昭和二十二年)	
第3章 北野恒富の芸術	52
第1節 北野恒富の画学習と作画態度の変化	52
(1) 「洋画ノ研究ヲシツツアリ」	
(2) 恒富にとっての古典——モチーフとしての古典学習	
(3) 大正から昭和期にかけての作画態度の変化——描法としての古典学習	
第2節 昭和期の作品に見る北野恒富の芸術	66
(1) 「蓮池(朝)」——色彩の追究	
(2) 「戯れ」、「阿波踊」——古典学習とドガの影響	
(3) 「五月雨」、「星(夕空)」——構図の追究と立体感の描出	
(4) 「いとさんこいさん」——北野恒富の芸術	
おわりに	81

謝辞		188
【資料4】北野恒富年譜（稿）		179
【資料3】北野恒富主要出品作品リスト（稿）		177
【資料2】スクラップブック『夜雨庵草堂』掲載記事目録（稿）		168
【資料1】北野恒富文献目録（稿）		152
図版出典		148
図版		83